

読書感想文への取り組み ～様々な読書活動を通して～

茨木市立穂積小学校

吉田 恵美

1. 茨木市の取り組み

- 「生きる力を身につける学び方」体系表
- 読書活動年間指導計画案
- 図書館支援員の全校配置

生きる力を身につける体系表

「生きる力を身につける

	I. 学びと施設	II. 情報源のさがし方	III. 情報源の使い方
<p>小学校低学年</p> <p>身の回りのことに興味関心を持ち、楽しんで学ぶ。</p>	<p>①学校図書館の使い方</p> <p>②学級文庫の使い方</p> <p>★コンピュータ室の利用</p> <p>★公共図書館の利用</p> <p>・公共図書館へ行き、楽しむ。</p>	<p>①本のさがし方</p> <p>②本のならび方</p> <p>・ラベルの色、分類</p> <p>★コンピュータをさわる。</p>	<p>①図鑑の使い方</p> <p>★国語辞典の使い方</p> <p>★コンピュータで遊ぶ。</p> <p>・起動・終了、ゲーム、メニュー</p> <p>★人にたずねる方法</p> <p>・手紙、電話、聞き取り</p>
<p>小学校中学年</p> <p>めあてをはっきりさせて、進んで学ぶ。</p>	<p>①いろいろな情報源</p> <p>②公共図書館の使い方</p> <p>★各種サービスの受け方</p> <p>③課題の立て方</p>	<p>①本の分類の仕方</p> <p>・おおまかな十進分類法</p> <p>★コンピュータ、テレビからの情報</p> <p>・CD-ROM、インターネット、ビデオなど</p>	<p>①国語辞典の使い方</p> <p>②漢和辞典の使い方</p> <p>③地図の使い方</p> <p>④コンピュータ、テレビからの情報の使い方</p> <p>⑤新聞・雑誌(子ども用)</p> <p>・やさしい百科事典の使い方</p> <p>⑥人にたずねる方法</p> <p>★ファイル資料の使い方</p>
<p>小学校高学年 および中学校</p> <p>自らの課題を見通しを持って、自分の考えた方法で学ぶ。</p>	<p>①いろいろな施設の使い方</p> <p>・施設の種類と使い方</p> <p>・依頼、訪問、見学</p>	<p>①目的に合った情報源を選ぶ</p> <p>・調べる目的の確かめ</p> <p>・本、人、施設、CD-ROM、インターネット、ビデオなど</p> <p>・情報の比較、評判</p>	<p>①百科事典の使い方</p> <p>②新聞・雑誌の使い方</p> <p>③年鑑の使い方</p>

※>①印の項目はその学年で必ず指導したい内容 ☆印はその学年で

「学ぶ方」 体系表

茨木市教育研究会図書館部会編 平成13年4月

IV. 情報のまとめ方・学びあい	V. 生活の充実
<p>①調べたことのまとめ方</p> <p>・折書き、絵や文</p> <p>②発表の仕方</p> <p>・組芝居、絵日記、絵本、ペープサートなど</p> <p>③情報を交流する。</p>	<p>①図書館に慣れ親しむ。</p> <p>②本を好きになる。</p> <p>③表現することが好きになる。</p> <p>④自分の作品をつくる。</p> <p>⑤学んだことを友だちや家族に伝える。</p> <p>⑥活動をふりかえり、感想を持つ。</p>
<p>①調べたことの変換の仕方</p> <p>②表や図を使ってのまとめ方</p> <p>・壁新聞</p> <p>③記録カード、ノート作成</p> <p>④資料リスト作成</p> <p>⑤OHP、OHC、フラッシュカードを使っての発表</p> <p>⑥情報を交流し、学びあう。</p>	<p>①いろいろな施設に慣れ親しむ。</p> <p>②目的をもって本を読む。</p> <p>③目的をもって表現する。</p> <p>④相手を意識して作品をつくる。</p> <p>⑤学んだことをクラス、学年に伝える。</p> <p>⑥活動をふりかえり、必要だと感じたことは行動する。</p>
<p>①Vインフォットの作成</p> <p>②コンピュータを使ってのまとめ方</p> <p>・ホームページ作成</p> <p>③発表の仕方の工夫</p> <p>④コンピュータでの発表</p> <p>・メディア組芝居</p> <p>・プレゼンテーションソフト</p> <p>・Fビデオ、デジタルカメラ</p> <p>⑤情報を交流し、高めあう。</p>	<p>①目的に応じて施設を利用する。</p> <p>②自分の生き方を考えながら本を読む。</p> <p>③相手によりよく伝えるように表現する。</p> <p>④学んだことや自分の考えを全校、地域へ幅広く伝え、行動する。</p> <p>⑤活動をふりかえり、より良い生活をめざす。</p>

学習に取り入れても良い内容 ・印はその内容についての具体的な指導内容

読書活動年間計画表

平成26(2014)年度読書活動年間指導計画案

炭木市立穂積小学校 司書教諭(浅木昌代)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
読書に親しむ活動	主な活動	図書利用のきまをおぼえよう 借り方・返し方 フイル・なかまわけ	読書の記録をとろう 読書ファイル作り	友だちの読書感想文に学ぼう 夏休みの読書計画 読書感想文の書き方			夏休みに読んだ本の紹介をしよう	心に残った本の内容を絵に表そう	たくさん本を読もう 冬休みの読書計画		調べたことを発表しよう		一年間の読書のまとめをしよう	
	一斉読書行事	朝の読書(毎週木曜日 朝の学級活動時間) 読書アンケート(1・2・3学期)						(9月) 全国読書感想文応募	(10月) 読書感想文応募	(11月) 地域読書月間	(1月) 三島地区読書感想文応募			
	ボランティアとの連携	1~4年毎月1回読みかせ(図書室の時間) → 全校児童対象毎月2回読みかせ(業間)PTAまほうのランプ →												
		1~4年毎月1回読みかせ(図書室の時間) → 全校児童対象毎月2回読みかせ(業間)PTAまほうのランプ →												
生きる力を身につける学び方・学習領域	1年	・図書館の使い方(Ⅰ) ・本のならび方(Ⅱ) ・本のさがし方(Ⅱ) ※「たんけん」(生)		・本をすきになる(V) ※「おおきなかぶ」(国) ※「ほんはともだち」(国)			・図書館に慣れ親しむ(V) ・図鑑の使い方(Ⅲ) ・調べたことの意味(Ⅳ) ・学んだことを友だちや家族につたえる(V) ※「あきになったね」「あきフェスタ」(生) ※「いろいろなふね」(国)		・調べたことの意味(Ⅳ) ※「わたしのはっけん」(国)		・調べたことの意味(Ⅳ) ・学んだことを友だちや家族につたえる(V) ※「本をすきになる(V)」 ※「わくわくふゆがやってきた」(生) ※「花いっぱいになあれ」(国)		・本をすきになる(V) ※「本はともだち」(国)	
	2年	・図書館の使い方(Ⅰ) ・本のならび方(Ⅱ) ・本のさがし方(Ⅱ) ※「レッツゴー!町たんけん」(生) ※「げんきにそでた」(生) ※「ぐんぐんのびろ」(生)		・本をすきになる(V) ※「本は友だち」(国)		・図書館に慣れ親しむ(V) ・図鑑の使い方(Ⅲ) ・調べたことの意味(Ⅳ) ・学んだことを友だちや家族につたえる(V) ※「もつと知らない町のこと」(生) ※「言いつたえられているお話をしよう」(国) ※「ピーパーの大作事」(国)		・調べたことの意味(Ⅳ) ※「由は道具をもっている」(生) ※「かさこじぞう」(国)		・調べたことの意味(Ⅳ) ・学んだことを友だちや家族につたえる(V) ※「本をすきになる(V)」 ※「みんな大きくなったよね」(生) ※「おもちゃまつり」へようこそ(国)				
	3年	・情報を図書やインターネット等から収集し活用する。(Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ) ※わたしたちの炭木市(社) ※校たんけん(総) ※市内たんけん(総) ※昔たんけん(総)	・国語辞典の使い方(Ⅲ) ※国語辞典の使い方(Ⅲ) ※国語辞典の使い方(Ⅲ)	・公共図書館の使い方(Ⅲ) ・人に与える方法(Ⅲ) ※図書館見学(社) ※見学新書作り(国)	・調べたことの意味(Ⅳ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)		・自分の生き方を考えながら本を読む(V) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的をもって本を読む(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的をもって本を読む(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的をもって本を読む(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的をもって本を読む(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的をもって本を読む(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的をもって本を読む(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的をもって本を読む(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)
	4年	・情報を図書やインターネット等から収集し活用する。(Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ) ※けんこうなくらし(社・総) ※大塚府のようすと人々のくらし(社) 大塚の文化を知ろう・日本について知らせよう(総)	・漢和辞典の使い方(Ⅲ) ※漢字辞典の使い方(Ⅲ)	・人物の様子や気持ちを考えながら読もう(Ⅳ) 走れ		・自分の生き方を考えながら本を読む(V) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)
	5年	・情報を図書やインターネット等から収集し活用する。(Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ) ※わたしたちの国土(社) ※米作り体験学習(総) ※都道府県パンフレット作り(総)	・国語辞典の使い方(Ⅲ) ※国語辞典を活用しよう(Ⅲ)	・漢和辞典の使い方(Ⅲ) ※漢字の由来に思いをよこそう(Ⅳ)		・自分の生き方を考えながら本を読む(V) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)
	6年	・情報を図書やインターネット等から収集し活用する。(Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ) ※歴史学習(社) ※平和について考える～修学旅行をとおして～(総)	・漢和辞典の使い方(Ⅲ) ※漢字辞典を利用しよう(Ⅲ)			・自分の生き方を考えながら本を読む(V) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)	・目的に合った情報源を選ぶ(Ⅱ) ※「あきになったね」(生) ※「あきフェスタ」(生)

学習領域 I 学びと施設 II 情報源のさがし方 III 情報源の使い方 IV 情報のまとめ方・学びあい V 生活の充実

図書館支援員の全校配置



授業の学習支援



物流の利用



休み時間、長期休暇中の開館



こいのぼり作り



たなばた



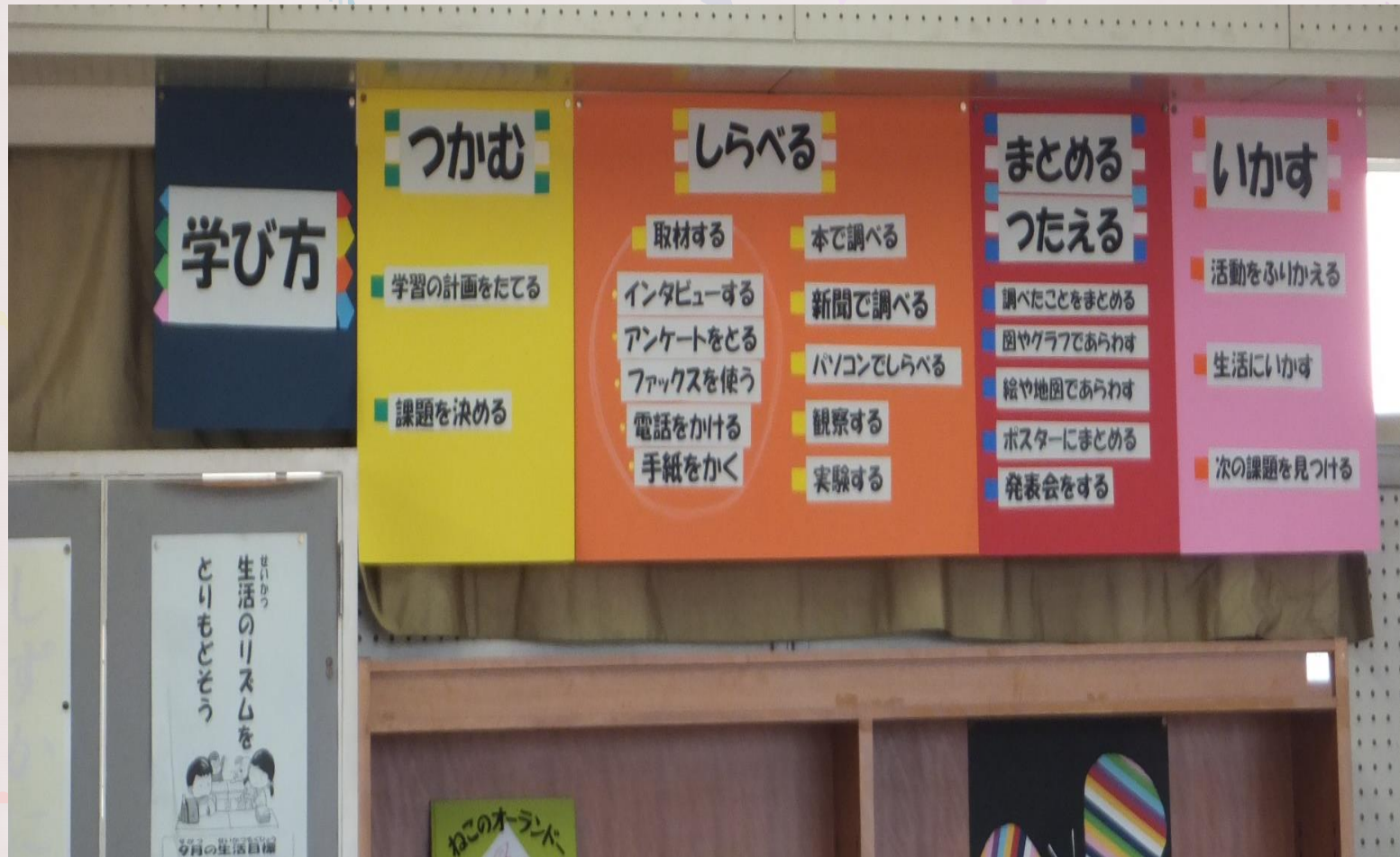
ハロウィン



クリスマス



学校図書館の環境整備



図書室の入り口

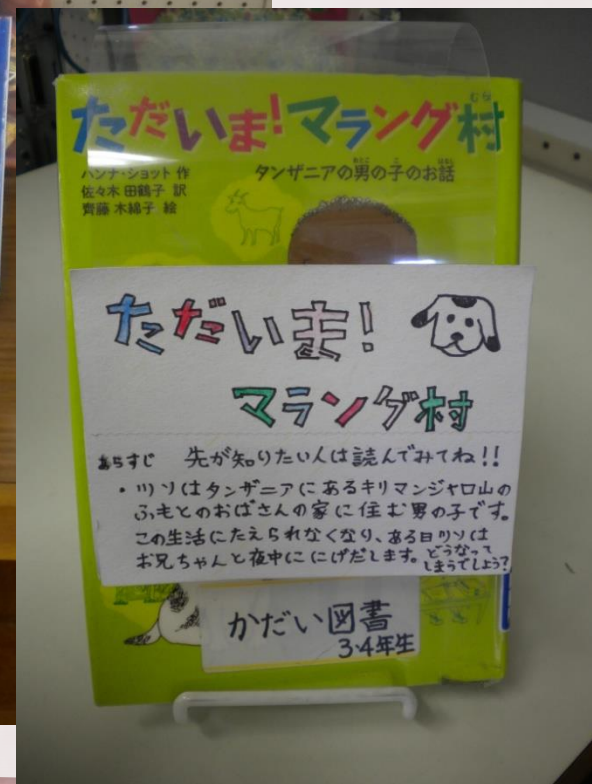


ろうか掲示板



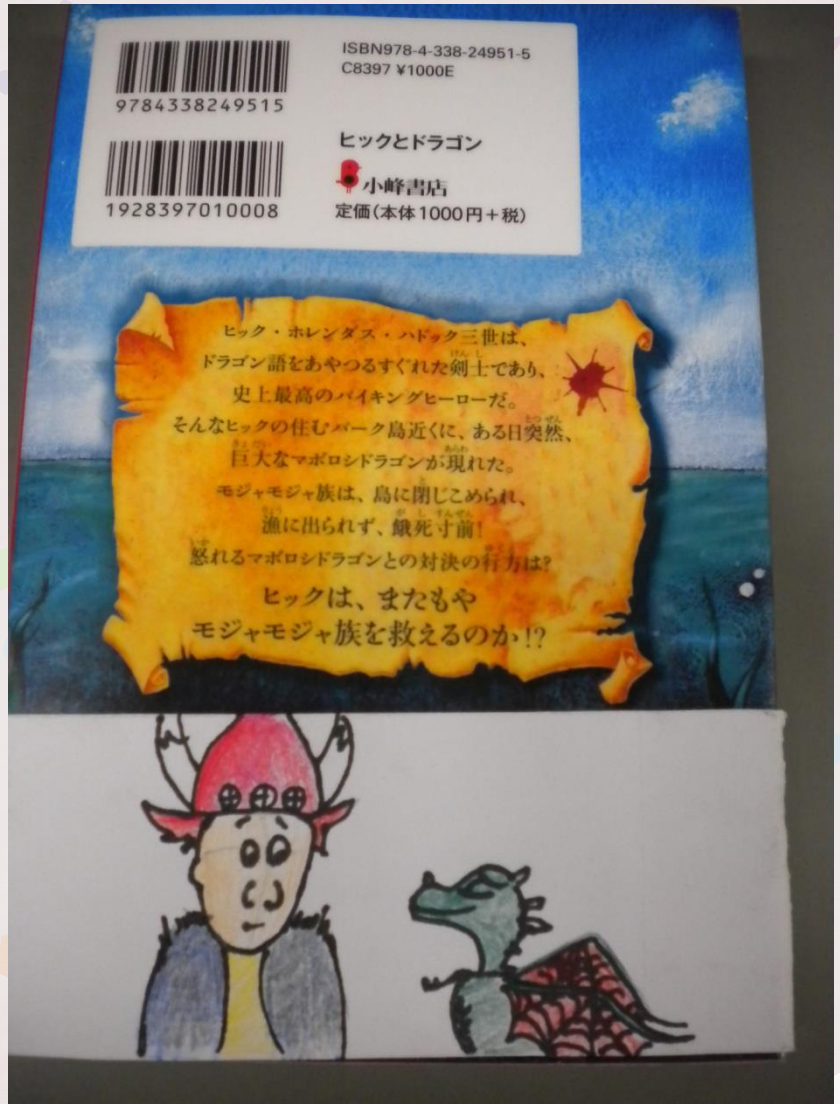


図書委員会との連携



本の帯





2. 読書感想文への取り組み

- 感性を育てる読書活動
- 技術を磨く読書活動
- 書くことを支える活動

読書感想文を書く力

読書活動



感性

国語力



技術

感性を育てる読書活動

1. 読み聞かせ
2. 今週のおすすめの本
3. 調べ学習
4. ひろばよみ
5. 1年生への読み聞かせ

1. 読み聞かせ



筒井頼子 さく 林明子 え (1977)
はじめてのおつかい 福音館書店

2. 今週のおすすめの本

- 『注文の多い料理店』 → 宮沢賢治
- 『海のいのち』 → 立松和平
- 理科の実験 → 科学読み物、月の観察
- 社会科 → 地理、歴史、公民
- 修学旅行 → 戦争に関する本
- 家庭科 → 料理や手芸の本
- 行事に合わせた本
- 各月の祭事の本

3. 調べ学習





学び方

つかむ

しらべる

まどめる
つたえる

いかに

あたらしい本

4. ひろばよみ







5. 1年生への読み聞かせ



技術を磨く国語力

読み取る



書く



交流・評価

C 読むこと

ウ 目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。

B 書くこと

ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。
イ 自分の考えを明確にするため、文章全体の構成の効果を考えること。

カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

読み取る

序論

話題提示

本論

本論の構成を知る

結論

筆者の主張

↓
自分の考えを明確に持つ

書く活動に至るまで

読む

- 文章構成を学ぶ
- 筆者の主張

調べる

- 筆者の主張に対する自分の考えを持つ
- 複数の資料から情報を得る

書く

- 筆者の文章構成を参考にする
- 学んだことをいかす

『未来に生かす自然のエネルギー』

序論

話題提示

→「持続可能な社会をつくっていくには」

本論

本論1 <使いきりエネルギー>

現状→課題→解決策

本論2 <再生可能エネルギー>

現状→具体的な取り組み→課題→解決策

結論

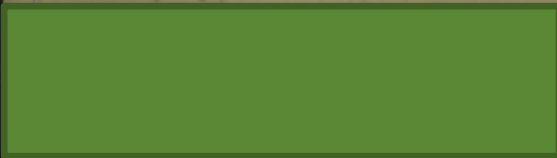
筆者の主張

→「持続可能な社会をつくっていくにはエネルギー問題の解決が必要だ。」

日本の資源へのエネルギー

クリーン
エネルギーが
支える未来

名前



日本の資源とエネルギー

日本はアメリカ、ロシア、~~中国~~に次いでエネルギー消費量が4位です。現在のエネルギー源はおもに石油で、全国エネルギーの半分以上を占めています。しかし、このほとんどが輸入にたよっています。石油で、全国エネルギーの半分以上を占めています。しかし、このほとんどが輸入にたよっています。

日本のエネルギー供給は不安定です。火力日本の発電はおもに火力発電です。火力

発電は石油、石炭を燃やして、その力を利用して発電をします。このとき燃やした化石燃料が大気を汚染し、生物に害のある物質を発生させます。

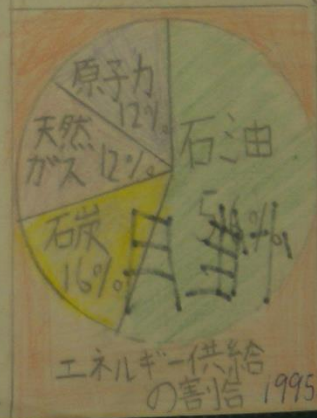
このような状況のなか、注目されているのが原子力発電です。使用されるエネルギー源はウランですが、ウランのウラン235は熱エネルギーをえることができません。石油よりもはるかに効率的です。経済的なエネルギー供給ができます。

しかし、この一方で、その安全性への問題も、事故による放射能汚染の問題など、地球規模で考えなければならぬ問題があります。

その中で、これらの問題を発生させないクリーンエネルギーというエネルギーの開発がすすめられています。

バイオマスエネルギー、太陽エネルギー、地熱エネルギー、風力エネルギーなど、使っても使っても元がへらさないこのエネルギーがこれからの世界を支えていくでしょう。

今のぼくたちが出来ることは、小さなことから地球を守っていくことです。現代に生きるぼくたちの行動が、未来のエネルギー状況を左右するのです。



総発電量の比率のつりかた	
1960年	
火力	49.4%
水力	50.6%
1995年	
水力	9%
火力	61%
原子力	29%

書くことを支える活動

1. ノート指導
2. 作文指導
3. 新聞作り
4. ホワイトボードの活用

歴史人物Q7イズ

Q 清盛は死ぬ前に何がほしいと言ったでしょうか。

① 紫式部の手紙 ② 義経の足 ③ 頼朝の首

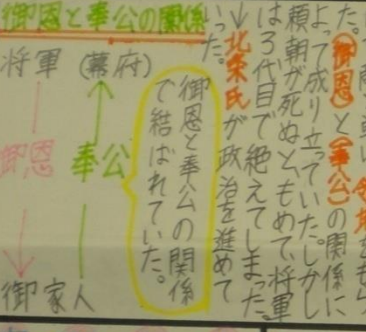
Q 源頼朝が亡くなった原因は何でしたか。

① 馬落 ② 暗殺 ③ 自殺 ④ 毒死

武士は朝廷の警備や貴族を守る仕事をしていた。特に力を認められたように、特に力が強くなったのが源頼朝だ。武士としてはいじめて政治をおこなうことになったのは平清盛。しかし、清盛は藤原氏と同じような政治をした。その結果平氏に反発をもち貴族や武士が増えた。源氏のかしらは源頼朝ただ頼朝は平氏の政治に不満をもつ人たちが平氏をほろぼした。

武士タイムズ

源氏 VS 平氏



平氏をほろぼした頼朝は鎌倉で政治を始めた。頼朝は家来になた武士(御家人)を守り、(い)の取り立ての仕返しは力を強めていった。頼朝は征夷大将軍に任命され鎌倉に幕府をひらいた。頼朝は平氏のように、高い位にはつかず鎌倉で政治を行った。そのため武士から支持された。御家人となつた武士は命をかけて敵と戦い、領地をもらった。(御恩)と奉公の関係により、頼朝が死ぬともめて、將軍は3代目で絶えてしまった。北条氏が政治を進めて、御恩と奉公の関係で結ばれていた。

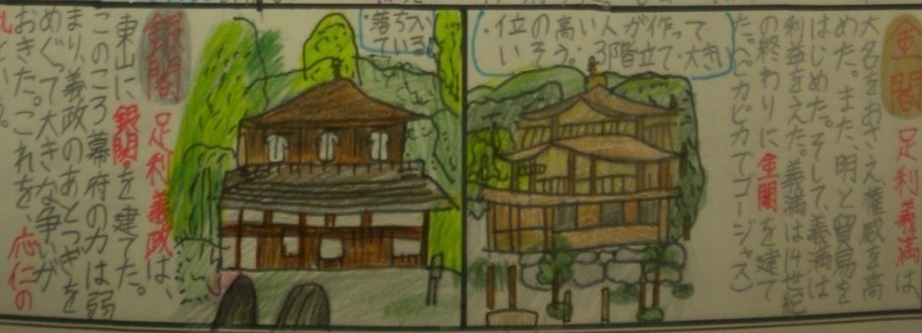
鎌倉幕府

室町・文・化

室町時代の中頃から、書院造が発達した。そして、水墨画や茶の湯、能、ほんおどりなど、今の日本に伝わる文化が生まれた。人々は共同で作業を行い、食事も回し、団結力を強めた。政治も安定した。

元 日本 戦い

モンゴルが中国にせめこみ、元は日本を攻めた。元は日本を何度も九州をおとせ、ついに京都に上陸した。御家人たちは命をかけて戦ったが、幕府から御恩として、もらえる領地はわたされた。そのために、幕府に不満を持つ武士が増え、御恩と奉公の関係がくずれた。



江戸時代を生きた歴史人物特集

近松門左衛門 (1653年 ~ 1724年)

近松門左衛門は武士の家に生まれ、町人の苦しみや悲しみをしばしばの白本に書き、町人を感動させた。竹本義太夫と組んで、曾根崎心中、国性斎合戦など多くの作品を生み出した。近松門左衛門が生み出した歌舞伎や、(おしほ)は今も多くの人に親しまれている。

歌川広重 (1797年 ~ 1858年)

歌川広重は幕府の役人の子に生まれ、浮世絵師の歌川豊広の弟子となった。最初は役者絵や美人画をかくていたが、葛飾北斎に引き継がれて風景画をかくようになった。幕府から命じられて、京都に行くと、その時の風景をかいて、(浮世草子)を出版した。広重の絵は、(水やマネ)などの西洋の画家にやがて、(き)や(あ)をあたえた。のちに、(浮世絵)もあらわれた。

本居宣長 (1730年 ~ 1801年)

商人の家に生まれ、医者になるため京都に行き、医学の他に(儒学)や(国学)も学んだ。国学者の賀茂真淵が松阪に来たとき、弟子になり、真淵のすすめで、古事記の研究に取り組み、三千年以上かけて、古事記伝を完成させた。宣長は古典文学を研究し、(国学)や(儒学)が伝わる前の日本人の考え方を明らかにした。(国学)

伊能忠敬 (1745年 ~ 1816年)

儒学は、主君と家来、父と子などの上下関係を大切にした。学問、人々を支配するのに役立った。

寺子屋とは??

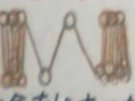
寺子屋は、七才から十五才ぐらいの子供たちが通う学校。寺子屋では、(日常)生活に必要(な)読み書き、そろばんなどを教えられた。

杉田玄白 (1733年 ~ 1817年)

小浜藩の藩医の子として江戸に生まれた。玄白はオランダ語で書かれた人体かいぼう書を手に入れ、実際にかいぼうを見学し、その本の正確さにおどろいた。それからこの本のほんを訳し、始め、三年ほどかけて、(解体新書)を完成させた。

伊能忠敬 (1745年 ~ 1816年)

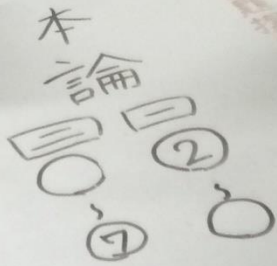
忠敬は上総国に生まれた。若いころは酒屋を営み、卒オのころから天文学や測量術を学んだ。そして、(全国)を測量して歩き、初めて正確な(日本)地図をつくった。





adidas

結論
⑧



抄論

①

IN MY LIFE NEED ONLY FOOTBALL



学年目標
 ・違いを認め
 支え合う仲間



序論は挨拶
 りて雨の降る様子などか
 書かなくてはいけない
 結論は挨拶語を添える

序論
 ① 結論
 ② 本論一：雨の名前説明
 ③ ④ ⑤
 ⑥ ⑦
 ⑧ 結論
 ⑨ このように……

話題提示
 序論はじめ

めあて
 短い読み取り
 雨のいろいろ
 如月六日(木)

雨のいろいろ
 序論
 理由
 ・雨の名前の語を
 ・語彙提示がある
 ① 名前 ② ③ ④ ⑤
 ⑥ ⑦ ⑧
 ・「の上」と書い

6.2. 時間割表

	月	火	水	木	金
1	理科	道徳	算数	国語	体育
2	国語	音楽	保健	家庭	理科
3	算数	社会	家庭	理科	算数
4	国語	社会	家庭	理科	算数
5	総合	国語	国語	国語	国語
6	総合	国語	国語	国語	国語

大切にしよう
 ① 学び
 ② 仲間
 ③ 行事

その日の行事

1	行事
2	行事
3	行事
4	行事
5	行事
6	行事



技術を磨く 国語力

読み取る



書く



交流・評価

交流・評価

発表

- 書いた文を読み合う
- 発表する

評価

- 評価シートに記入する

ふりかえり

- 本人に返す
- 次に生かす

未来に生かす自然のエネルギー

作成者()

① 接続語が適切に使われているか。 5・4・3・2・1

② 文章構成が明確に書かれているか。

話題提示・現状・具体的な取り組み・課題・解決策

③ 自分の考えが書けているか。 5・4・3・2・1

④ 図や表、グラフが効果的に使われているか。 5・4・3・2・1

⑤ リーフレットは見やすく読みやすい工夫がされているか。 5・4・3・2・1

⑥

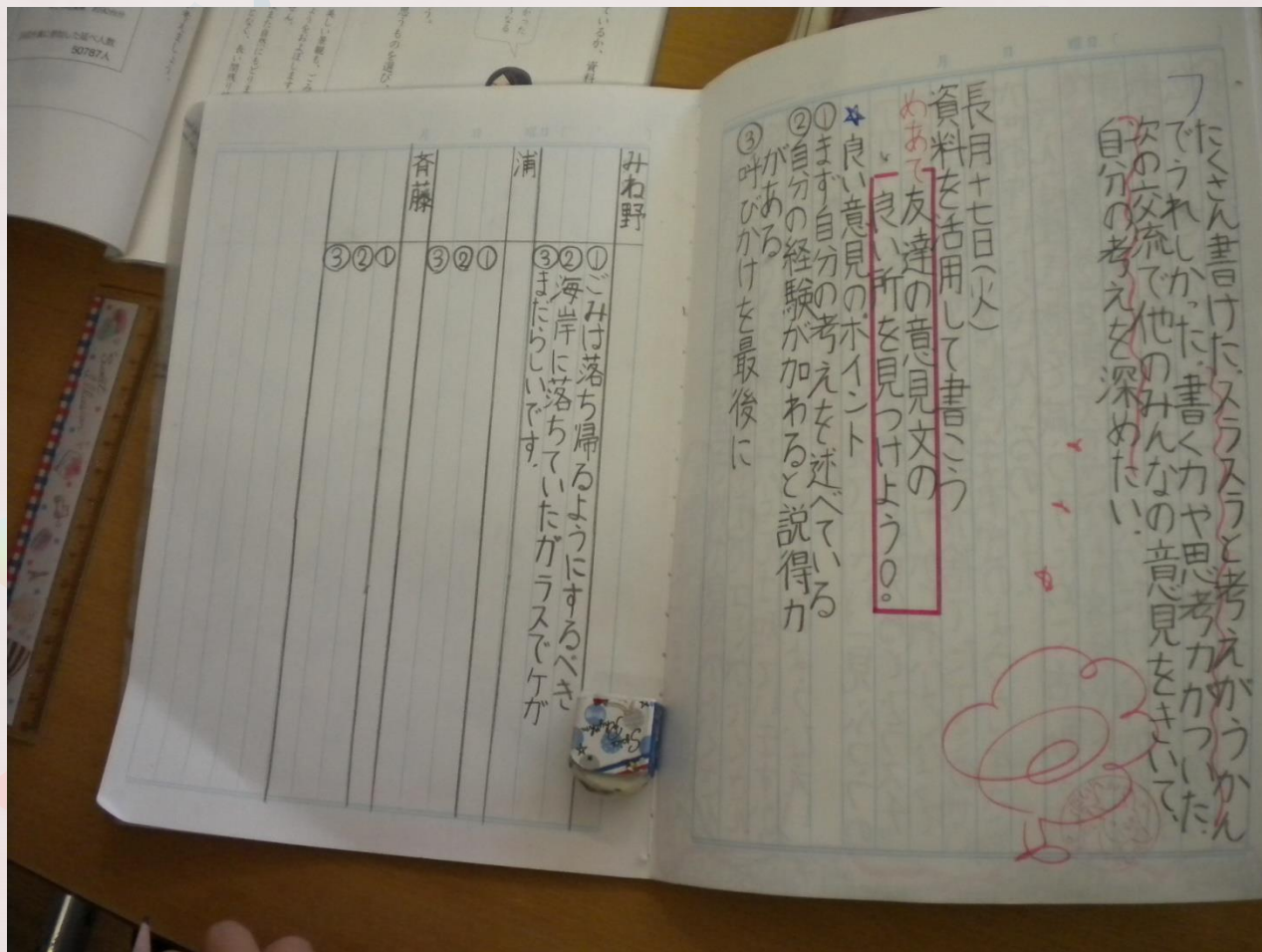
⑦

⑧

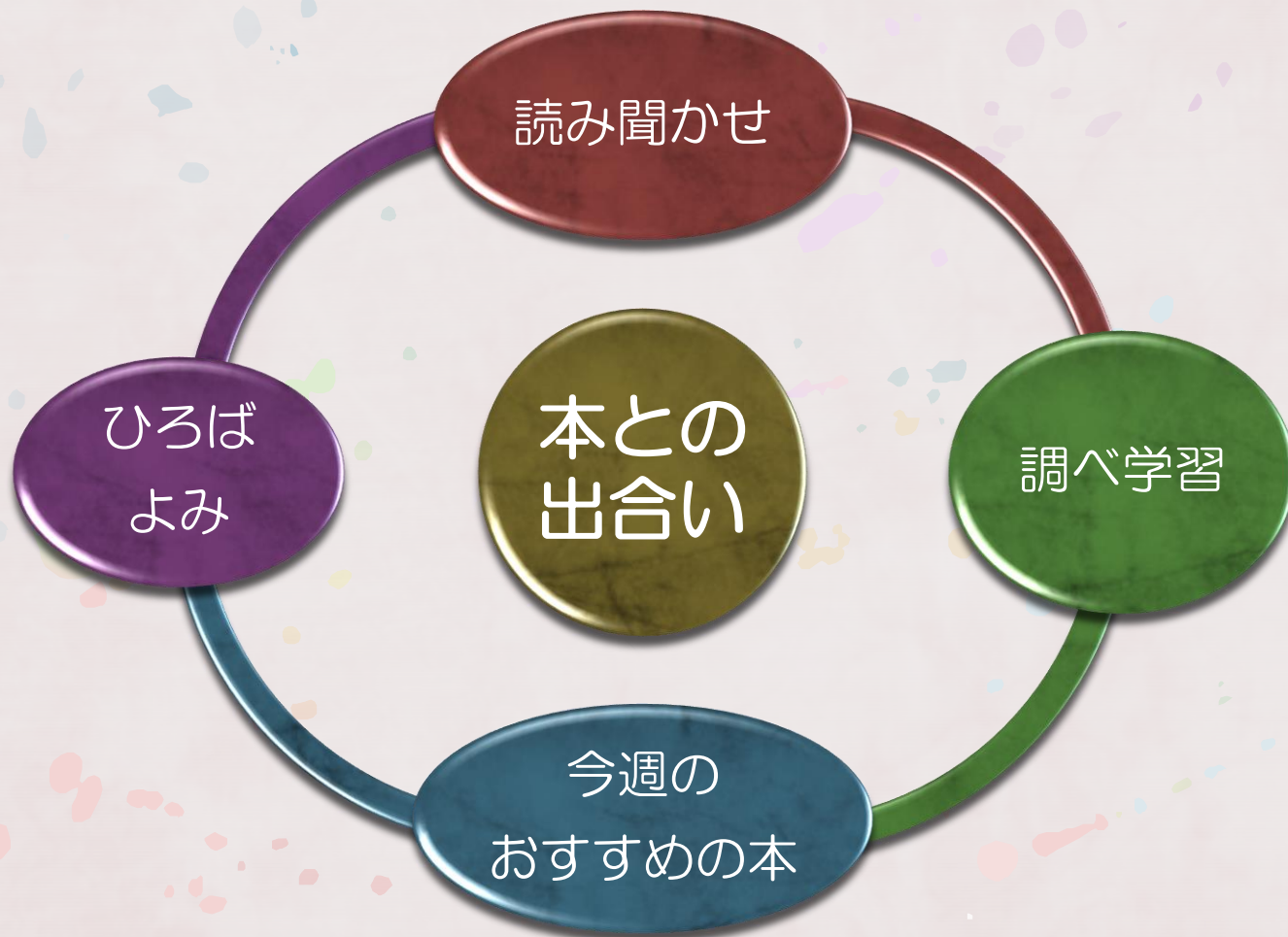
コメント

採点者()

5. 読書感想文指導



読書感想文は選書から



書く事柄を整理する

高学年
六年（松浦早希）

読書感想文を書く前に

★読書感想文を書く前に、次の方法でまず書くことを整理してみると、書きたいことが自分でもはっきりして、書き出すとスムーズ最後まで書けるようになります。

①読んだ本の中で、心に残ったところを、できるだけたくさん書いてみよう。

②どうして心をうたれたのか、そのわけを考えてみよう。

③その本を読んで、一番心を動かされたところがらをまとめてみよう。

④③のことで自分の経験や、家の人や先生・友達から聞いた話などで、思い出すことがあったら書いてみよう。

沖繩県の戦争の悲惨さについて。

↓

修学旅行で学んだことと重なる部分があったから。

阿波根さんの強い意志と行動力に感動したから。

今の自分たちの現状を伝える運動をおこした場面。

↓

この言葉が本の中が一番気になったから。

非暴力とゆすり合いで平和をさすく。

↓

阿波根さんの勇気ある行動・戦争の悲惨さ。

↓

広島で平和記念資料館に行ったこと・戦争の悲惨さ、平和の大切さについて学んだ。

⑤その本を読むことによって、あなた（あなたの考えは）どう変わりましたか。

↓

今の平和がどれだけ幸せか深く考えるようになった。

⑥右の準備ができたなら、書く内容と順序を整理しましょう。

題	平和をつなぐ	書き出し文	「かわいらしく」「信じられない……」	主題テーマ	平和の大切さ、戦争の悲惨さ
柱立て	初め	中心	結わり		
	1 本の内容	2 戦死したひいおじいちゃんのこと。	3 今の平和のありがたさ。		
	平和記念資料館で感じたことについて。				
	次世代へと平和をつなぐ責任が私たちにはあるということ。				

「読書感想文を書く前に」プリント

書いた文を推敲する



推敲のポイント

1. 複数の本から学んだことを入れる
2. 自分の経験、身近な人から聞いた話を入れる
3. まとめは身近な生活にもどって、自分ができるところを具体的に

感想文の書き方

①もし今日が、最後の一日だとしたら

秋田県能代市立鶴形小学校
六年 飯坂 希理子

②もし今日が、人生の最後の一日だとしたら、わたしは誰に会いたいですか？
 この本を手に取りました。最後の一日、私だっただろうと過ごすのだから。そんなことを考えながら、十のストーリーを
 読んでいきました。

この物語には、十人の主人公が出てきます。夢で自分が死ぬことを知ってしまった主婦、戦争で特攻機に乗る青年、両親の離婚で離ればなれになる兄弟、明日結婚する花嫁……。みんなそれぞれ立場はちがうけれど、共通していることは最後の一日を精一杯生きようとしていることです。悪あがきでも、もうだめだと分かっているでも、あきらめずに最善をつくそうとする十人の主人公の生き方に私は心をゆさぶられました。

④その中でも、私が一番共感できた人物は、「日本一、やさしい一日」に出てくる香奈恵です。香奈恵は、病気で目の手術をします。香奈恵にとっての最後の一日は、手術の前日です。視力が失われる前に香奈恵がしたことは、大好きな絵を描くことでした。両親は、香奈恵の前では悲しい顔を見せないように努めて明るくふるまいます。本当は泣きたいのをごまかして、そこらで。そして、香奈恵の目が見えなくなる前に、たくさん美しい景色を見せてあげたいという願いから家族で山にでかけます。しかし、香奈恵のスケッチブックに描きためられていた絵は、美しい山の景色ではなく、大好きな両親の顔でした。目が見えなくなっても、両親の顔を忘れないように笑った顔や怒った顔、困った顔などたくさん描いていました。失明前の最後の一日を日本一優しい気持ちで過ごした家族。お互いがお互いを思いやる姿に涙が止まりませんでした。

⑤私と三年前に手術をしました。病院のストレッチャーに乗せられて手術室に入る時、両親が笑顔で見送ってくれたことを覚えています。その時は、あまり深く考えなかつたけれど、今思えば、私を不安にしないように笑っていたんだなあと
 思います。手術は無事に成功し、最後の一日にはななかつたけれど、私にとって、忘れられない一日になりました。
 今、何事もなかつたように日常を重ねているけれど、この本を読んで、生きていることに感謝したい気持ちになりました。

物語の中だけでなく、毎日の生活の中にも、最後の一日はあります。私たち六年生には、この一年いつでも、「小学校生活最後の一日」という言葉がついてきます。小学校生活最後の運動会、小学校生活最後の学習発表会、小学校生活最後の一日、こう考えると、最後の一日は誰にでも、何度でもやってくるものだと思います。毎日が最後の一日であって、大切な一日一日の積み重ねが、最後の一日につながっているのではないのでしょうか。

⑦もし今日が、最後の一日だとしたら、私は今日を大切に生きたい。この物語に出てきた十人の主人公のように、精一杯、あきらめずに、最後の一日を笑顔で過ごせるように。

リンダブックス編集部・編・著「最後の一日...さよならが胸に染みる10の物語」(泰文堂)

- ① 題名
- ② 書き出し
- ③ 本との出会い
- ④ 最も印象深い内容
- ⑤ 自分との比較
- ⑥ 自分の考えの変化
- ⑦ まとめ

「本を読んで」↓本の中で最も心に残った言葉を使
 「私は...」↓読み手をひきつける一文(「...」な
 なせその本を選んだのか、そのきっかけ
 本を読んで最も心に残った内容を、
 自分の生活や体験と結びつけて書く、
 その本を読むことにより、自分の考えがどう変わったか、
 出来るだけ三文程度で、今後の自分と向き合う。

感想文は、実は本を選ぶところからもう始まっています。
 自分の生活や経験と結び、たりの本を探そう...

ご清聴ありがとうございました

